

No. 168
2015. 5

ねば

広報

私たちの村

人口と世帯 27年4月30日現在

総人口 1,011人
男 508人
女 503人
世帯数 427世帯

村の木 す ぎ

村の花 岩つつじ

発行 根羽村役場
〒395-0701 長野県下伊那郡根羽村1762
TEL 0265-49-2111 FAX 0265-49-2277

ホームページアドレス <http://www.nebamura.jp>
メールアドレス info@nebamura.jp
印刷 龍共印刷株式会社



向かって右から
村議会議長 片桐龍男様
飯田建設事務所長 山岸 勸様
衆議院議員 財務副大臣 宮下一郎様
飯田国道事務所 飯田維持出張所長 吉川昌宏様
月瀬地区公民館長 鈴木忠一様
根羽村長 大久保憲一様



5月1日に、大久保憲一村長が2期目、
初登庁しました。

3月29日に、大杉公園周辺整備事業の
竣工式が行われました。(詳細は8ページ)

5月号の主な内容

村長就任挨拶	2ページ
議員紹介	2～5ページ
選挙結果・臨時議会	6ページ
根羽村福祉医療給付事業	7ページ
養育費相談会開催のお知らせ	7ページ
大杉公園竣工・植樹祭・戸籍だより他	8ページ

村長就任あいさつ



村長 大久保憲一

この度の根羽村長選挙に立候補させて頂き、村民の皆さんからのご支持を頂き、二期目の村政を担わせて頂くこととなりました。改めて、その職責の重大さを感じるとともに、新たな村づくりに向けて身の引き締まる思いであります。

さて、平成二十三年五月に根羽村長に就任してから、一期四年間はあつという間に過ぎ去ったというのが実感であります。その間、村民の皆さんからいろいろな意見をお伺いし、議論をする中で村づくりを進めてきました。根羽村は、多くの村民の皆さんが様々な立場で村づくりに関わって頂いており、こうした取り組みが、新しい元気な村づくりの大きな原動力となってくれるものと確信しているところ

であります。

さて、私たちは自分たちの住むこの根羽村に「誇り」と「自信」を持つて生き生きと生活し、そのことを、次世代を担う子ども達にしっかりと引き継いで行くことが重要であります。そのための基本コンセプトとして、私は三つの地域内での循環が必要であると考えています。一つは村内で働く場所や機会を創出する「雇用の循環」、二つ目は村内でお金を回す「経済の循環」、三つ目は村内で生活するための医療や福祉、教育などの「サービスの循環」の三つの仕組みを構築し、矢作川の源流地にある根羽村から、様々な情報発信する中で、流域連携による地域づくりにも積極的に取り組んで行きたいと考えています。その上で「村民の皆

さんと一緒になって考え運営する村づくり」、「地域資源の活用による産業の創出と雇用のある村づくり」、「村民の皆さんの健康増進や福祉対策、生きがいのある村づくり」、「教育、文化、子育て支援の充実した村づくり」、「生活環境整備と防災対策の充実した安全、安心な村づくり」、の五つの目標を掲げ、村づくりに取り組んでまいりたいと考えています。

具体的には、地区懇談会や様々な機会を通じて村民の皆さんの意見をお聞きし、しっかりと議論する中で村づくりを進めてまいります。また、子ども達にも今まで以上に積極的に村づくりに参加してもらいます。村の基幹産業であります林業の振興については、継続的な森林整備の推進にあわせ、一昨年の大雪による森林の被害復旧にも、本年度から本格的に取り組んでまいります。また、「根羽スギ」、「根羽ヒノキ」を、矢作川全体で「流域材」として活用する新たな仕組みづくりや、新しい販路の拡大や、木材活用による二酸化炭素の固定などを前面に出した取り組みも進めて行きたいと思っています。また、流域にある企業や団体の皆さん

と連携する中で、「環境面での地域づくり」にも力を入れて行きたいと思っています。また、遊休農地の活用により生活環境整備を進めるとともに、生産物の新たな販路確保等によって、農家収入の増加を目指すなど、新しいビジネスモデルの構築も進めていきたいと考えています。また、村が元気であるためには、村内の商工業が元気になることが重要であります。このためには村内で消費の循環があることが必要であり、今まで以上にプレミアム付商品券、木の駅プロジェクトで行っている「地域通貨」等の拡充を図ってまいりたいと考えています。また、既存の商店や企業の皆さんとの情報を密にし、様々な連携や支援を行ってまいりたいと考えています。また、村民の皆さんが健康に暮らすために、各種検診の充実や村内医療機関と連携した医療体制の拡充にも努め、安心して村内で住み続けられるために、社協や「ねばねの里なごみ」等として連携し、福祉サービスの拡充も図ってまいりたいと思います。さて、少子高齢化は大きな課題ではありますが、根羽村では保育所、小学校、中学校が一貫して連

携した取り組みを進めており、根羽村の「スモールメリット」を最大限生かして、学力の向上はもとより、子ども達が伸び伸びと学べる環境整備を進めるとともに安心して子育てができるよう、子育て支援の拡充も図ってまいりたいと考えています。また、道路や河川、上下水道などのインフラ整備についても、計画的な維持更新を進めるとともに、施設の長寿命化も進めてまいります。また、防災対策については、防火水槽等のハード施設の整備はもとより、どのような形で起こるか分からない災害に対して、まずは自分の命は自分で守る行動をとること、そしてお互いで助け合う共助など、命を守る基本的な取り組みについての拡充を図る必要があると考えています。

自然環境に恵まれ、人情豊かな根羽村に「住んで良かった」として「これからも住み続けたい」と思える安全・安心で元気な村づくりを村民の皆さん、議員の皆さん、関係者の皆さんと一緒に進めて行きたいと思っていますので、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げ、就任の挨拶と致します。

議員紹介

議長

石原 明治



根羽村議会議員一般選挙において、三期目の議席を得ることができました。

皆様方の力強いご支援とご支持があればこそ、と心から感謝申し上げます。

さて私達の根羽村も高齢化率四十八パーセント、人口一千人余という時代に入って参りましたが、地域の抱える問題を解決するためには、地域内での人間の『つながり力』をどう伸ばすかということがきわめて重要と考えます。

『近所の底力』・『絆の再生』こそがすべての社会問題、地域の抱える課題を解決する力ギであると確信しています。一人当たりの県民所得が全国第二位の愛知県に隣接する我が村においては、時代の変化による人々の価値観、行動様式などの変化によって地域資源の価値も変わってきています。その面から根羽

村をみますと森・川・水に恵まれた根羽村はまさに宝の山と言えるのではないのでしょうか。

人間は三十年で一代と言われているますが、地域資源は半永久的にあるものです。時代の変化と共に脚光浴びたり、廃れて見向きもされなくなったり、栄枯盛衰はあるものの、今だけを見るのではなく先の時代を見通して事に当たることが重要だと考えます。そのためには根羽村の歴史、伝統、文化、地理などを勉強し直し、世界からの情報収集も含めて自らを磨き地域を引っ張る元氣な議会を目指したいと考えています。

後世の方々が認識できるような足跡づくりに邁進して行く覚悟です。

村民の皆様一人一人が一役を担い、誇りをもって生活ができる根羽村を村長と共に目指してまいります。村民の皆様は今まで以上のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

副議長

西尾 竹司



この度の統一地方選挙に際し

ましては大変お世話になりました。多くの皆様方からのご支援をいただきまして、当選することができましたことに心から感謝を申し上げます。

私は、昭和四十五年から根羽村へ移住し、多くの村民の皆様と温かく育てていただきまして、家業も現在まで続けることができ、根羽村へ来た時から一日も早く村民の皆様と慣れる為に努力しながら参りました。お陰様で多くの村民の方々にご理解をいただき、商工会長、猟友会会計、損害評価委員、漁業協同組合副組合長、選挙管理委員等を務めさせていただきました。

政治に携わるのは初めてで、全くの素人ですが、村民の皆様のお聞きする中で根羽村を見てきた多くの経験を活かし、村民の皆様の声をよく聞き、行政施策に反映して参りたいと思っております。

さて、国も二十一世紀に向けて、人口急減、超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し、政府一体となって取り組み、各地域は各々の地域にある特徴を活かし自立的で持続的な社会を創生できるよう「地域」「人」「仕事」という三つの創生本部を設置しました。主役は地方で地域創生の取り組みを国は

応援するという施策です。

根羽村も先人が開拓してきた林業の振興、商工会を中心としてまとまりのある商工業の発展など、村では大変重要な役割を担っていると確信しています。また、人間が生きていく上で大切な農業振興、休耕地の再利用、獣害対策、社会福祉対策、社会資本整備等、村民の皆様の見解をよく聞き、対話を大事にしながら、しっかりと勉強して参ります。なお子どもが減少する中で、教育問題、伝統文化の継承等をはじめ、村にある資源を見つめ直して、地域に眠っていて気づかない価値のあるものにも目を向けて、地域興しにも貢献できるように、村民の皆様としっかりと話し合い、村の発展につながるような村政に努めて参りたいと思いますので、一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

南木 一美



この度の根羽村議会議員一般選挙におきまして、皆様方の温かいご支援を賜りましたこと心より感謝申し上げますとともに、私の様な世代が、より積極的に村

政に関わる機会を村民の皆様から与えていただいたものと理解し、与えられた責務に身の引き締まる思いであります。

私の活動の基本としては、

- ① 地域資源、特に未利用資源の使い尽くしによる地域内循環「ひと・もの・お金がまわる」仕組みづくり
- ② 交流人口の拡大を通じた人的資源の確保と外貨獲得「ねば応援団」「ねばファン」づくり
- ③ 自主自立の自治と、自己発露自己実現の場づくり

この三つです。

地方創生が叫ばれていますが、私の解釈では、今後生き残る地域と衰退する地域とがはっきり分かれること、おんぶに抱っこではなく自ら知恵を出し自立する覚悟のある地域に対しての支援であること、総花的（そうばなてき）な計画ではなく何を守りたいのか絞ること、それ以上に守らないものを見極める覚悟が求められていると思います。

村の魅力自慢を聞くと、大きくは、「自然の豊かさ」「人の温かさ」をあげられます。これらが皆さんの守りたいものであつて地域資源です。振興策というとすぐ輸入したくなりがちですが、まずは地域資源を活用した地域内循環を創り守るべきものを守り維持することが大切で

す。また今後、人口は減少すること前提に考えるべきで(構成比は別)、人口減少と活力低下を緩やかに、分水嶺(ぶんすいれい)を超えずに踏みとどまることが重要です。そこに交流人口を加えてみると、仕事、週末、盆と正月に帰省、大学、流域圏等々にレッテンバツハまで、根羽との関わり合い応援団つくりで補える部分が大いにあります。地域内循環+外貨を獲得する必要がありますが、ねばファンづくりは、根羽との繋がりが魅力での選択、価格だけでないストーリーを感じてもらおう試みだと思っています。

最後に村には多くの活動団体があり、活動団体の元気が村の活力になる。その動きが村の自治に繋がっていくはず。愚痴や不平不満、ちよつとした閑きアイデアを少しずつ形にしてい。そんな活動を皆さんと一緒に精一杯努力していきますので、宜しくお願い申し上げます。

下井敦志



私の事をよく知らない方もおいでかと思しますので、自己紹介

から始めさせて頂きます。

出身は飯田市の上郷です。十七年前に新井の梨の平に移住してまいりました。以来ずっと根羽中学校で美術の講師として教鞭をとってまいりましたが、昨年度退職をいたしました。当初は永住するかどうかは決めていませんでしたが、村民の皆様は優しく、また、村は住みやすく、数力月で永住する事に決めました。今までの間に、妻の転勤に伴い、三年間の予定で他の地に移る事がありました。二年で音を立てて帰って参りました。行政学者の大森彌氏の言葉を引用しますと、政治を志す人とは「五欲旺盛、気力体力は充実し、細心かつ厚顔無恥、自己顕示欲が強く並の人間ではない。」のだそうです。五欲とは、財欲、色欲、食欲、名誉欲、睡眠欲の事です。

ご存知の方は判っていただけだと思いますが、私はこれとは反対の部類に入る人間です。こんな私に何ができるのかと大変悩みました。が、村の政治は一部の人々のためだけでなく、全ての人のためにあるのだと思い、「並」の人間である私にでも村民の皆様の声を意見を、要望、苦情を「並」の立場で聞き、議会に届けることで、皆様の生活を少しでも良くすることができ

ばと思いを固めました。

この村には沢山の専門家が住んでいます。農業の専門家、酪農、建築、商業、福祉、林業、土木、それぞれの専門家です。主婦も専門家です。子どもを育てたのなら育児の。そうではなくても家事の専門家、スペシャリストです。この皆さんの専門的立場からの御意見を教えて下さい。沢山教えて下さい。これが村を良くする第一歩です。私はそれを村長さん始め他の議員さん、役場の職員の皆さんと協議し、結果を皆さんにお知らせします。少子化、雇用の問題など山積する問題解決のヒントはこれに隠れています。

「三人寄れば文殊の知恵」並の人間でも三人集まれば知恵の仏様と同じ名案がうかびます。この村にはいったい何人の文殊様がおいででしょうか。この村が良くならない訳はないのです。

片桐清博



この度の村議会議員一般選挙において、地区をはじめ多くの皆様方のご支援を頂き無投票という事ではございましたが、当

選させて頂きました。

もとより浅学非才、微力、未経験と三拍子そろった私ではございますが、初心を忘れることなく根羽村の発展のため、地区懇談会など皆様方との対話を大切に、明るく透明性の強い、住み良い村づくりに取り組んでまいりたいと思いますので、皆様のご意見、ご指導、ご協力をお願い致します。

子ども教育進学進路支援を考えるなかで、愛知県公立高校への入試の際、愛知県への一家転住が条件であったりすることが不合理に思え、それによって、本来受けられる授業料の軽減、無償の申請措置を見送ることが懸念されます。今現在、問題なく軽減措置を受けられている方には、ご迷惑にならぬよう、近隣の県などを調べてみたいと思います。

福祉施設ねばの里「なごみ」も三月より運営を始めましたが、働く方へのケアが非常に重要なことと考えています。福祉の安定充実、スタッフの心の安定充実からと思っています。飯田市を中心とした南信州広域連合の指針は、リニア中央新幹線と三遠南信道に関連したインフラ整備の基本構想が進んでいるようですが、根羽村も愛知県方面への一五三号線の整備と

伊勢神トンネルの早期着工を期待するところです。中京圏からの観光を含めた人の流れこそが根羽村にとって非常に重要な事と考えております。

将来、子ども達が戻りたいと思える根羽村を目指し皆様と共に頑張ってまいります。

ご支援 よろしくお願い申し上げます。

坂巻秀高



根羽村の皆様、毎日のお仕事ご苦労様です。

野に山に忙しい時期となりました。

さて、この度の根羽村議会議員一般選挙において、無投票当選。という甘い信任を頂いたわけであります。・・・

誰がなつても同じという無関心と閉塞感を増幅しているのかとの自責の念を感じつつも、高柳選挙管理委員長の告知書を頂くまで皆様から様々なご意見を頂戴いたしました。

膝を交えて話せば、皆様いろいろな意見があり、熱意、熱弁に圧倒されました。

潜在的な表に出てこないこの

村民力どう生かしていくのか。これから加速的に進む人口減少、限界集落とどう対峙していくのか。まさに、「村民と一緒に考え運営する村づくり」にシフトしなければ何も変わりません。自律、自立する次世代後継者を育成していかなければならないと思います。

個人演説会等発表の場がありませんでしたが、私は次の三つの政策を掲げました。

- 一、地域課題に取り組む。
- 二、自治区再編で活性化。
- 三、地域おこし、分かりやすい村づくりの推進。

自立していくということは、自前でものごとを計画し実行し、改善していくまさに、自治の原点だと思えます。

無理をさせない、無駄をさせない、ムラのない行政運営を推進して行きたいと思っております。

終始一貫、五年先、十年先は、予測ができませんが、今生きているその立ち位置から、「温故知新」続きでなく、より良い方向を見定めなければなりません。

究極は、村民力、何を大切に、共有し、歴史を刻んでいくのか。それは、主権在民、あなたが主役です。

そのことが「住んでよかつ

た」に通じるかもしれません。私も、習い、聞き、貢献して行く四年間にしたいと考えています。どうかご支援よろしくお願い申し上げます。

原 光 史



この度の全国統一地方選挙根羽村議会一般選挙は、私にとつて初めての無投票当選になりましたが、選挙で選ばれたのと同じ村民の皆さんに、今まで以上に三期目へのご理解と期待、それに力強いご支援を頂いたものと改めて二期、八年間の経験を基に、皆様のご意見をお聞きして、一緒になって『住みよい根羽村』『誇れる根羽村』『安心して住める根羽村』への村づくりを目指して三期目も精一杯頑張る所存です。

今、根羽村が抱えている問題は数多く、解決していくには大変な事だと思えます。少子高齢化問題、遊休農地や後継者不在問題、それに山林事業の衰退から自主財源不足による財政の窮乏問題等々、取り組まなければならない問題が蓄積しているのですが、一、二年で出来る事

と、長期間を要する案件もありますが、二期目を迎えた大久保村長も継続施策はもちろんですが、新たな施策を持つて村政に取り組み覚悟を示しているの、我々村議会も新しい議員と一緒に大久保村政を支え、協力し村長の初心の挨拶の「自然環境に恵まれ、人情豊かな根羽村で、生き生きと元気に暮らせ、住んで良かった、住み続けたいと思える村」が、実現出来る様に村民と行政と一緒に頑張って取り組む仕組みづくりを頑張ります。

その為には、根羽村で生まれ育つて、いつかは根羽に帰ろうと思っている人の話を聞き、ターン促進の基盤づくりに力を入れ、基幹産業の林業振興施策を始め、商工業者への支援と、創業者への援助を充実させます。これらの事は国会でも取り組んでいるので実現するのには良い時期で追い風になっています。

根羽村の山や川の自然環境の魅力を今よりも引き出し、根羽村を訪ねたい、根羽村に住みたい、と思う人を増やす為、矢作川流域の自治体との交流を深め、水は上から下に流すが、経済は下から上に登ってくるシステム、づくりに力を注ぎ込む所存です。

先人が築き上げてくれた緑の

山林と、味わい深い溪谷に澄みきった源流の清流を今以上にしていけば必ず根羽村を愛する人が増えると確信しています。

その為は何をしたら良いのか、何をしなければ成らないのかを、この在任中に多くの村民の皆さんをはじめ色々な分野の人との親交を深め模索研究をして実現したいと思っていますので、ご支援、ご協力の程をお願い致します。

数年前、数十年前、又更に数百年先になって、あの時に根羽村が「決心、決断」した事で今が在任のだよと、代々に語り継がれる仕事が出来る様に邁進したいと思っています。

今後、皆様のより一層のご支援、ご協力をお願いします。

石 原 明 子



この度の村議会議員一般選挙にあたりましては、地元の方々を始め多くの皆様の温かいご支援、ご支持を頂きまして、引き続き村政の場で働かせて頂く事となりました。

私は、この根羽村をこよなく愛する女性グループ『活かまい

会』からの推薦を頂き、安心安全な村づくりの為に何が出来ると、女性として何を成すべきなのか様々な模索の中で五つの目標を掲げ、取り組んで参りたいと決意致しました。

少子化対策への取り組み、介護予防事業の推進、子育て支援事業への積極的な取り組み、環境整備事業の推進、知的財産の保護及びその継承への取り組み……。

そのいずれにも、有効な処方箋は有りませんが、精一杯の努力を惜しまないつもりです。

村民の皆様の貴重なご意見を頂きながら、少しずつでも歩を進めて行きたいと決意しております。

根羽村には多数のグループがございますが、その中でも女性の関わっているグループは過半数を占めております。

こうした女性の活躍は、この根羽村の元気の源として、今や無くてはならない存在となっております。

女性は女性としての持てるパワーを発揮しながら、愛する故郷の為に、唯一無二のこの村の為に、より一層の力を尽くして参りたいと存じますので、どうぞ皆様の引き続きのご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

統一地方選挙の結果

長野県議会議員 一般選挙結果

四月十二日に執行された、長野県議会議員一般選挙は三名が立候補し投票率は七十三・八一％でした。
なお、開票結果は次のとおりです。

県議会議員一般選挙の結果

	当日の有権者	期日前投票者	不在者投票者	投票所投票者	投票者計	棄権者	投票率
男	437	127	2	191	320	117	73.23
女	445	145	0	186	331	114	74.38
計	882	272	2	377	651	231	73.81

村長選・村議選とも 無投票

村長選挙、村議会議員一般選挙が四月二十一日に告示され、村長選挙については二十一日の立候補届出が終了した午後五時までに、現職の大久保憲一氏の外に立候補者がなく、無投票で二期目の当選が決定しました。また、村議会議員一般選挙においても、定数八名に対し、八名の立候補者であったため、無投票で当選が決定しました。

候補者名	得票数
こじまひろし	171
吉川しょういち	157
高橋たかとし	311
無 効	12
計	651

議会 だより

第二回

統一地方選挙後の初議会となる第二回臨時議会が五月七日に開催されました。内容は、次のとおりです。

選 挙

◆議長選挙

臨時議長（石原明子議員）による指名推薦により石原明治議員が議長に当選しました。

◆副議長選挙

石原議長による指名推薦により西尾竹司議員が副議長に当選しました。

◆南信州広域連合議会選挙

石原議長が指名され、南信州広域連合議員に当選しました。

◆北設広域事務組合議会議員選挙

石原議長が指名され、北設広域事務組合議会議員に当選しました。

条 例

◆根羽村税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認について

国の法律等の改正に伴い条

臨時議会(初議会)を開催

例の改正が行われました。

◆根羽村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認について

国民健康保険税の賦課限度額引き上げによる改正が行われました。

人 事

◆監査委員の選任に付き同意を求めること

村議会の改選に伴い、石原明子議員が監査委員に選任されました。

◆固定資産評価委員の選任に付き同意を求めること

固定資産評価審査委員の辞職に伴い、稲垣晃さんが新規に選任されました。

そ の 他

◆消防委員会委員の推薦

議長より原光史議員・片桐清博議員・下井敦志議員の三名が推薦され承認されました。

◆議席の指定

◆常任委員会及び議会運営委員会委員の選任
下表のとおり決定しました。

議 会 構 成

議 長	石 原 明 治	副議長	西 尾 竹 司
総 務 委 員 会	◎ 原 光史 6番 下井 敦志 3番	○ 片桐 清博 4番 石原 明治 1番	
経 済 委 員 会	◎ 石原 明子 7番 南木 一美 2番	○ 坂巻 秀高 5番 西尾 竹司 8番	
議 会 運 営 委 員 会	◎ 西尾 竹司 石原 明子	○ 原 光史 石原 明治	

◎ 委員長 ○副委員長 数字は議席番号

根羽村福祉医療費給付事業について

(平成27年 4 月 1 日現在)

村では、子育て支援や福祉増進を目的に、高等学校卒業までの子どもたちと一定以上の障害者の方、母子等及び父子家庭の方を対象として、医療費の負担を軽減するために福祉医療費給付事業を行っています。

支給対象者

根羽村に住所があり次の表のいずれかに該当する方です。
(住所が村外であっても高校生等で扶養の事実があれば対象。)

※詳しくは、
役場住民課にお問い合わせください。

乳 幼 児 ・ 生 徒 等	・ 出生から18歳のうち扶養されている方(18歳誕生日後3/31まで) ・ 所得制限なし
障 害 者	次のいずれかに該当する方 ・ 身体障害者手帳3級以上の方 ・ 障害者年金をもらっている方 ・ 療育手帳の障害の程度がB1以上に該当する方 ・ 精神障害者保健福祉手帳1級・2級の方 (精神の方は1級・2級ともそれぞれ給付制限があります) ※それぞれ個々の所得制限等があります。ただし、18歳未満の障害者は所得制限なし
母子家庭の母子等	・ 一定の要件を満たす方
父子家庭の父子	・ 一定の要件を満たす方

給付方法等について

- 受診の際、保険証と一緒に、医療機関及び薬局へ受給者証を提示して下さい。
長野県内及び上矢作病院でかかった医療費は自動的に村へ書類がきますので、その後、申請時の指定口座へ振り込みをします。
※学校でのけがについては、災害給付金での対応となりますので、その際は福祉医療の受給者証は提示しないでください。
※受給者証を提示しないと支給されませんので忘れないようにしましょう。
- 県外でかかった医療費は、受け取った領収書を役場住民課へ提出して下さい。(レシートは無効です。)
※請求期限は1年以内
通常処理が2ヶ月おくれとなります。診療月の翌々月に振込む予定です。
※福祉医療で給付された医療費は外での控除対象費にはなりません。
(例えば、確定申告での医療費控除には使えません。)

給付対象医療費から除かれる項目

- ①医療保険各法の規定による、付加給付金
- ②国又は地方公共団体の負担において、医療に関する給付を受けることができるときはその額(高額療養費など)
- ③入院時の食事療養費及び生活療養費にかかる標準負担額等
- ④医療機関等の自動給付方式事務にかかる事務処理額として300円。
(1レセプト当村では300円。長野県の規定では通常500円のため差額200円は当村が負担。)

福祉医療資金貸付制度について

1. 根羽村福祉医療給付金支給条例による給付金受給者
2. 世帯及び生計を一にする者のいずれも当該年度分の村民税が非課税である者
以上の要件を満たす者のうち、村長が医療費の支払いが困難と認めた者

喪失について

- (1) 支給対象者の要件に該当しなくなったとき(当該要件に該当しなくなった日の属する月の翌月の初日)。
 - (2) 死亡又は転出したとき(当該事実の発生した日の翌日)。
 - (3) 他法等で療養の給付等を受けるとき(当該事実の発生した日)。
- ※なお、資格喪失した場合は、受給者証の返還をお願いします。



問い合わせ
県青年司法書士協議会
〇二六五―四八〇―三一五

相談は無料で、秘密は厳守
します。
フリーダイヤル
〇一二〇―五六七―三〇一

日 時
平成二十七年八月二日(日)
午前一〇時から午後四時まで
電話番号

県青年司法書士協議会と全
国青年司法書士協議会では、
養育費に関する電話相談会を
開催します。

司法書士による
「全国一斉
養育費相談会」
「こどもの笑顔のために」
開催のお知らせ

大杉公園竣工

平成二十五年度より着手しました大杉公園周辺整備事業が、平成二十七年三月二十九日に竣工式を迎えることができました。

この大杉周辺整備事業は都市再生整備事業によるもので総額約三億円の工事費で完成しました。

この公園は根羽峡大橋(吊り橋)、エントランスサイン、くぐりゲート、トイレなど根羽スギをふんだんに利用した木の温もりを感じられる公園となりました。特に根羽峡大橋(吊り橋)は延長49・2mあり、根羽峡と呼ばれる美しい渓谷を眺めながら渡り、四季折々の景色が満喫できます。

そして、「根羽峡大橋」を渡ると国の天然記念物である月瀬の大杉までゆったりとした空間を楽しめるようになっていきます。

今回の整備より月瀬の大杉への道路環境の整備は整い、月瀬の大杉を中心に根羽村全体の観光地の活性化が期待されます。

この事業にあたり地権者の皆様をはじめ地域の皆様、この事業に携わっていたいただいた皆様方、大変お世話になりました。



第六十三回結婚記念植樹祭・平成二十七年根羽村植樹祭

第六十三回結婚記念植樹祭・平成二十七年根羽村植樹祭が五月九日にネバーランド周辺で盛大に開催されました。

新婚者一組、銀婚者二組、金婚者三組の方々が参加されミツバツツジを植樹しました。

今年も矢作川流域を通じて交流のある安城市、明治用水土地改良区など村外の参加者、根羽小学校みどりの少年団と併せて約一五〇名の方が参加され、美しい村づくりを目指して、安城市から贈呈してい



ただいた苗木を含む四〇〇本のミツバツツジ・ヤマツツジを植樹し記念のプレートを取り付けました。

午後からは、木工体験(まい箸作り・木はがき)を行い根羽スギと触れ合いました。参加された方は作業を通じて森林づくりの思いを新たに、根羽村での植樹祭を楽しみました。

根羽村交通安全事故ゼロ一千日達成

平成二十四年六月二十五日から今年三月二十一日をもって、村内における交通安全事故ゼロが一千日となり、長野県知事より表彰を受けました。

これも、交通安全協会による啓発活動をはじめ、村民の皆様の交通安全への意識の高まりによるものと思います。

今後も、交通安全への意識を高め事故を起こさない、合わないよう注意しましょう。

